脳神経外科

2024年3月末に井上翼先生が浜松医科大学医学部附属病院へ異動し、4月になり岡崎諒先生が赴任した。9月末に橋本宗明先生が浜松医療センターへ異動し、10月になり聖隷浜松病院脳神経外科から川路博史先生が赴任された。川路先生は若手の教育指導や脳卒中地域連携パスの導入など診療体制の整備へ注力する一方、てんかん・機能神経外科として手術治療を含めた専門性の高いてんかん診療を行っている。また2025年1月より脳腫瘍治療科の部長へ就任し、悪性脳腫瘍を含めた脳腫瘍の手術治療や放射線化学療法、がん遺伝子パネル検査や緩和支持的治療を含め、脳腫瘍に関する診療がより一層強化された。

また釼持は2024年4月に脳卒中の外科学会技術認定医、9月には脳神経血管内治療学会専門医を取得し、脳血管障害に関して直達手術、血管内治療を患者さんの病状に合わせてそれぞれのメリットを最大限考えて治療ができるよう日々努力している。その中で2025年3月には脳血管撮影装置が更新された（Allura Xper FD20/20、Philips社製）。さらに同月聖隷浜松病院神経内科より本間一成先生が当院脳卒中科部長へ就任され、特に急性期脳主幹動脈閉塞の血栓回収療法などを協力して行うことができるようになり、脳卒中診療体制が一層強化された。

2024年はスタッフの入れ替わりが多く、診療体制の維持が当面の目標であったが、入院や手術治療件数は増加傾向であった。頭部外傷や重症脳血管障害では頭蓋内圧モニターを利用した集中治療が多くなり、また脳血管内治療においては浜松医科大学の根木宏明先生のご指導のもと、頚動脈ステント留置術や脳動脈瘤コイル塞栓術も増加傾向であった。破裂脳動脈瘤に対する最新の治療法として、Woven-EndoBridgeデバイス（W-EB）による脳動脈瘤治療も経験することができた。脳腫瘍の手術治療については術中神経モニタリングを積極的に使用することで機能温存を最大限達成できるよう努力している。

日々の神経救急疾患は、昨年同様に脳卒中科と連携しながら計5名の宅当直制で対応している。iPadを使用した遠隔画像診断を利用するなど、働き方改革に合わせてコメディカルと連携し、医療の質を落とさず効率的に日々の診療を維持していくことが直近の課題である。また若手医師や初期研修医への教育指導など、脳神経外科を幅広く対応できる当院の特色を活かして魅力を伝えると同時に、希望に合わせたキャリアアップを後押しできるような診療体制の構築を目指している。

（部長　釼持 博昭）

・医師数　　2名　　・専攻医　　1名
・初期研修医　　0名

（2025年4月現在）

【入院患者】　（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新 入 院	506	412	441	500	707
退　　院	504	433	441	533	692
延べ人数	11,490	9,653	10,351	12,386	17,309
一日平均	31.5	26.4	28.4	33.9	47.4

【外来患者】　（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新　　来	362	349	484	550	454
再　　来	4,264	4,178	4,450	5,283	5,925
延べ人数	4,626	4,527	4,934	5,833	6,379
一日平均	15.8	15.5	16.8	19.9	21.8

【平均在院日数】　（単位：日）

年　　度	2020	2021	2022	2023	2024
日　　数	21.8	21.8	22.5	21.8	23.8

手術内訳	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	（単位：件）
脳腫瘍	24	25	26	15	19	
髄膜腫	4	2	3	2	6	
神経鞘腫	0	1	2	0	0	
神経膠腫	3	3	6	3	2	
脳血管障害（直達）	37	31	27	24	20	
脳動脈瘤	24	17	16	18	6	
脳内出血	7	5	5	1	5	
脳動静脈奇形	1	0	2	0	1	
CEA その他	5	7	2	5	8	
外傷	82	58	74	88	78	
急性硬膜外血腫	0	1	0	2	0	
急性硬膜下血腫	5	0	1	2	3	
慢性硬膜下血腫	77	55	70	84	73	
その他	0	2	3	0	2	
水頭症	15	10	10	11	15	
微小血管減圧術	2	0	3	5	0	
血管内手術	15	20	25	26	48	
てんかん・機能外科	－	－	－	28	36	
その他	22	11	33	16	8	
合　計	197	155	188	213	224	